



学長 須賀 英之

歴史と文化の香り高いご当地で、本学教員・学生合同の演奏会が開催されますことを、大変嬉しく思います。ご尽力を賜りました卒業生をはじめ関係者の皆様には、深く感謝申し上げます。

半世紀に亘る音楽科卒業生は 5,683名(短大高校合計)にのぼり、地域の音楽文化の向上や人材養成に幅広くご活躍されるとともに、世界各地へ演奏の場を拡げております。本学では、平成28年度に邦楽専攻コース、平成30年度に吹奏楽アンサンブル専攻コースを開設し、邦楽室やアンサンブルホールを新設するなど、教学も益々充実しております。

本日の演奏会が、本学の温故知新をお伝えし、皆様との音楽を通じたご縁が一層深まる機会となることを期待し、重ねて御礼を申し上げます。

PROGRAM

I 学生の演奏

1. ピアノ連弾 佐藤佑香・長野美帆子
ラフマニノフ作曲 「6つの小品」op. 11 より ワルツ / スケルツォ
2. サックス二重奏 古谷真唯・淵岡 涼 (ピアノ伴奏) 長野美帆子
長生 淳 作曲 パガニーニ・ロスト
3. ソプラノ独唱 荒川菜捺 (ピアノ伴奏) 坂田悠花
モーツァルト作曲 オペラ「フィガロの結婚」より 楽しい思い出はどこへ
4. アンサンブル チェロ 岡田莉奈 / サックス 古谷真唯 / ピアノ 阿久澤政行(賛助)
「エリック・サティ生誕150周年記念メドレー」 編曲 阿久澤政行

II 教員の演奏

1. 邦楽合奏 箏・十七絃 和久文子 / 尺八 福田智久山 / 箏 前川智世
宮城道雄作曲 「春の海」
沢井忠夫作曲 「道化師」
2. ソプラノ独唱 大貫裕子 (ピアノ伴奏) 阿久澤政行
岡野 貞一作曲 岩河智子編曲 ふるさと
ヴェルディ作曲 オペラ「椿姫」より 乾杯の歌
ブッチーニ作曲 オペラ「ジャンニ・スキッキ」より 私のお父さん
グノー作曲 オペラ「ロミオとジュリエット」より 私は夢に生きたい
3. ピアノ独奏 新井啓泰
リスト作曲 パガニーニによる大練習曲より ラ・カンパネッラ
ショパン作曲 ノクターン遺作 嬰八短調
英雄ポロネーズ op. 53 変イ長調
4. アンサンブル 会場の皆さんと共に II 部の出演者で
～初秋の曲をあつめて～ 構成 新井啓泰

プログラム ノート

I 学生の演奏

〈各出演者記〉

1. 「6つの小品」op. 11より ワルツ / スケルツォ

20世紀の革新的な作曲技法からは殆ど無縁で、終生ロマンティックな作風を守り続けたラフマニノフ。1894年21歳の作品で、多彩でピアノスティックな面とロシア風の重厚な抒情を合わせ持った曲集です。本日は6曲中、最も明るくロマンに満ちたワルツと、歯切れよくリズムカルで変化と輝かしい響きに富んだスケルツォを選びました。

3. 「フィガロの結婚」より 楽しい思い出はどこへ

「フィガロの結婚」は「セビリアの理髪師」から三年後が舞台になっています。かつては熱愛してくれた伯爵も今は他の女性に目移りするように…伯爵夫人は夫の浮気を嘆き、愛し合った楽しい日々を思いを馳せながらこのアリアを歌います。苦しい状況でも愛情を持って立ち向かうとする伯爵夫人の強い意思と、希望を感じる一曲です。

2. パガニーニ・ロスト

この曲は、サクソフォン奏者の須川展也氏の委嘱により書かれました。パガニーニの24のカプリースの終曲がモチーフとして隠されています。普通の変奏曲とは違い主題が見つけにくい形で描かれているのは、須川氏の音楽に対する求道的な姿勢を表しているそうです。本日は演奏時間の関係で、一部短縮して演奏いたします。

4. サティ生誕150周年記念メドレー

「音楽界の異端児・変わり者」と称されたサティの作品はどれも独創的です。例えば拍子記号や、小節線、終止線を記載しない作品や、日常生活で使う家具をテーマに音楽表現した作品等もあります。本日の編曲は「3つのジムノペディ」より 第1番、「ジユトゥヴ」、「ピカディリー」の3曲構成。どれもサティの名曲です。

II 教員の演奏

1. 「春の海」

宮中歌会始の勅題「海辺巖」にちなんで作られたもので、かつて瀬戸内海を船で旅したときの印象に、波の音や鳥の声、漁師の舟唄など春ののどかな情景がまとめられている。箏と尺八の二重奏曲だが、フランスの女流バイオリニストのルネ・シュメーのバイオリンと宮城道雄の箏で奏したことで世界中の人に知られるようになった。

「道化師」

尺八、箏、十七絃で華やかにくり広げられるリズムの綾取り、中間部にうねる頹廃的でもの悲しい旋律——生きるという事の中で誰もがふと垣間見る自分自身、その中に道化師は住んでいる。——と作曲者は語っている。現代邦楽のこの曲は、約400年前に八橋侯爵が考案した奏法を生かした三重奏となっている。

2. 乾杯の歌

イタリアの大オペラ作曲家であるヴェルディの代表作である「椿姫」の1幕で歌われる曲。本来は、主人公ヴィオレッタ役のソプラノとアルフレード役のテノールとの二重唱に合唱が加わる。二人が出会うパーティーの場面で、人生の楽しさと生きることと愛することの素晴らしさが華やかに歌い上げられる曲。

私のお父さん

イタリアの巨匠ブッチーニが作曲したオペラ「ジャンニ・スキッキ」の中、父親のジャンニに、娘のラウレッタが「これから彼と指輪を買いにボルタ・ロッサへ行くわ。もし、許してもらえないならヴェッキオ橋の上からアルノ川に身を投げるわ。どうか、結婚を認めて」と訴える。大変に美しい旋律で有名なアリア。

私は夢に生きたい

1866年にフランスのグノーがシェイクスピアの「ロミオとジュリエット」をオペラとして作曲した。第1幕で、ジュリエットが「自分を酔わす夢の中で生きていきたい。青春は長く続かないけど、自由な恋の甘い炎よ、私の心の中にこれからもずっと残っていてね。」と歌う明るいワルツ。

3. ラ・カンパネッラ

「鐘」とも訳され、大変人気のこの曲が、実はパガニーニのヴァイオリン協奏曲が原曲だという事は案外見逃されがちである。パガニーニは技巧の妙技性という面から音楽界に大旋風を起こした。編曲の才能に長けていたリストは、パガニーニの音楽の魅力を、見事にピアノという楽器の言葉に置き換えたのである。繊細に始まる鐘の音のテーマは最後には大伽藍のように盛り上がり情熱的に締めくくる。

英雄ポロネーズ / ノクターン遺作

「ポロネーズ」とは「ポーランド風の」の意味である。ショパンは若くして芸術を志し、ポーランドを離れるが再びその地に戻ることはなかった。当時彼のポロネーズを聴いた者は、ポーランドとその土地の人々を想ったという。祖国に想いを馳せたこの誇り高き堂々たる曲は、今も人々に感動を与え続けている。またノクターン遺作はピアノの詩人ショパンらしい孤独と抒情溢れる美しい名曲である。